



事例 7

古い家屋での屋内移動の自立を目指しての段差解消

本人家族の希望・要望

(日常生活における不便・不自由な点)

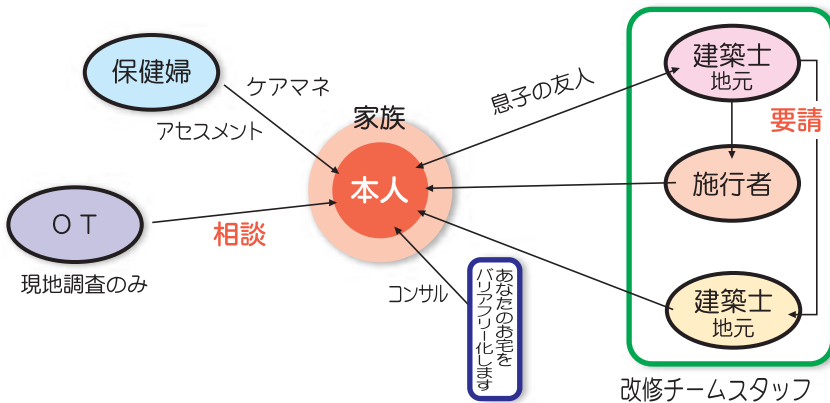
1. 寝室をリビングの近くに移動、断熱化する。
2. 家の中で車椅子で移動できるように段差解消。
3. 車イスで外に出られるようスロープの設置。
4. 排泄が自立できるような介助スペースを持つトイレ。
5. 自宅での入浴ができるバリアフリー仕様のユニットバス化。



これまでの流れ

- 15年前脳出血
- 退院後殆んど家の中での生活。月1回の通院で町に出かけるくらい。
地域に公的ケアサービスが乏しいため利用していない。
- 本人の居室はポータブルトイレの臭気に遠慮して、家族の居間からいちばん離れた北西の角を使っている。
- 庭の手入れや草花を見るのが楽しみだが、外へ出るのに家族の手を煩わせることに遠慮してほとんど外出しない。

住宅改修チーム



家族をまじえて
改修チームスタッフ打合せ

<p>性別／年齢 女性 72歳 世帯構成 本人夫婦、息子夫婦、孫2人の6人家族 主介護者 夫、嫁 住 宅 木造2階建 病 名 脳出血、骨粗鬆症 障害の程度 2級：右上下肢機能障害 病 歴 昭和59年 ・脳出血 ・骨粗鬆症 介護度 要介護3 身体及び介 護の状況 ・車椅子で寝室～居間までの移動は自立、車椅子からソファへの移乗も自立しているが、食堂・台所への段差が、そこから本人を動けなくしている。 ・ベットから車いすへの移乗はできる。衣類の着脱は時間がかかるが自立。立位は短時間ならできる。 ・ふだんの生活は、終日テレビを見て過ごすことが多い。 ・息子夫婦も手伝っているが、発病してから長いので、本人に気兼ねがある。家族に対する遠慮から気持ちを解放するためにも、住環境を整えてあげたいと家族が考えている。 ・本人からは何も要求がない。</p>	<p>自立の状況 (共通の項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●寝返り・起き上がり ・自立 ●衣服の着脱 ・準備を手伝い、一部介助 ●洗面・歯磨き ・介助 ●トイレ ・ポータブルで自立 ●入浴 ・介助、清拭（現在の自宅浴室では入浴するには移動のために数名の手助けが必要） ●歩行 ・車椅子で自立 ●移動 屋内 ・車椅子で自立（寝室～居間まで） 屋外 ・車椅子で介助 ●移乗 ・一部介助 ●調理・食事 ・調理は不可、食事は自立 ●家事 ・不可
---	---

現地調査



北西の角の
既存寝室



居間となりの次の間
改修前は使用されてい
なかった



茶の間と食堂の間
仕切段差



台所～洗面所
沢水流しの段差で車イスでは
洗面所まで1人では行けない



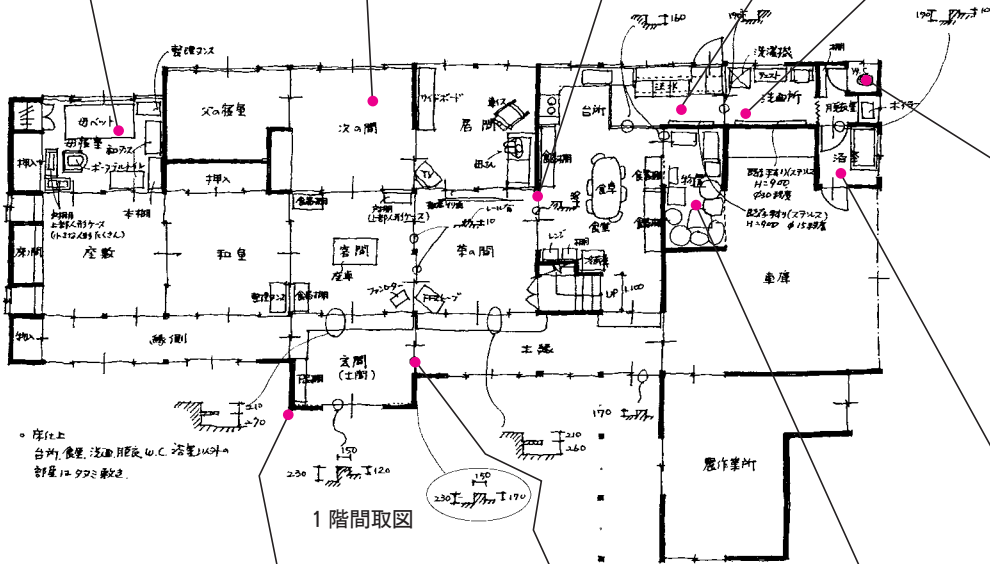
洗面所は比較的広いが、
洗面台は車イスでは使
えない



トイレは狭く車イスで
は入れない



浴室はタイル貼りで入
口が狭く、床の段差も
大きい



改修チームスタッフ
現地調査風景



改修前玄関
昔ながらの農家づくりの家
敷居をまたいで入る



玄関～土間縁
出入りには敷居をまたぐ




食堂脇物置

既存家屋の概要

建築年	昭和30年
階・建	木造2階建
工事範囲面積	浴室・洗面・脱衣室、WC、寝室 103.0㎡
所有形態	自己所有

住宅改修支援の流れ（スケジュール）

年月日	本人・家族の状況		住宅改修チームの支援内容と動き	
	状況	内容・要望	住宅改修支援チームの動き	内容
平成11年 12月7日	<ul style="list-style-type: none"> ○2級身障手帳取得から15年。 ○昭和30年ごろの建築で、間取りなど典型的な昔の農家づくり。 ○主な介護者である夫は、2年前に梯子から転落する事故があり、血腫除去の手術を受けた。以来、頭痛がある。高齢でもあり、介護負担が不安になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発病してから長いので、本人に気兼ねがある。家族に対する遠慮から気持ちを解放するために。 	<p>事前現地訪問調査</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本人及び家族の生活状況を聞き取り、町のケアサービス等、地域の社会資源との関連についてのアセスメント。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政（県） 行政（町） CW コンサル <ul style="list-style-type: none"> ・身体、ADL、介護状況等確認 ・本人・家族の要望確認 ・住宅、移動状況の確認
平成12年 1月13日	<ul style="list-style-type: none"> ○息子は今回の工事を3月中旬には完成させたい。なるべく早めに打ち合わせを終えて、工事に取りかかってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○右片麻痺も自走できる車椅子の貸し出しや、介助バーを利用して自立してベッドから車椅子への移乗が出来るように、補助器具の選定 ○本人及び主たる介護者である夫の身体状況についても合わせて考える。 	<p>改修チーム現地訪問調査</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ○改修チームの建築士及び、施工業者は全て家族の知人で構成された。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政（町） 施工業者 建築士 OT コンサル <ul style="list-style-type: none"> ・改修プランの打ち合わせ ・福祉用具についての説明 ・今後の進め方 ・介護保険におけるサービス利用との連携について
平成12年 1月28日	<ul style="list-style-type: none"> ○改修プランについての話し合い 		<p>改修プラン打ち合わせ</p> <p>↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施工業者 建築士 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの話し合いを元に改修プラン作成。
2月1日	<ul style="list-style-type: none"> ○最終改修プランについての話し合い ○工事期間2月14日頃より着工し3月15日頃までの完成を希望。 ○自己資金も限界があるので融資を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家族の意見 ①段差解消としての床レベルの工事の他、設備の改修も大きな範囲に及ぶため、工事予定金額は200万以上オーバーしている。が、中途半端のままにはしたくないので、このプランで進めることに決定。 ②食堂から外部に出入りするためのスロープ部分への床仕上げや、出入口のサッシの位置についてはもう少し吟味したい。 ③居間からの建具の開口方法、洗面、トイレ、脱衣室の床材の仕上げについてもカタログ等で確認。 ④トイレ及び浴室の手すりの素材及び位置についても確認したい。 	<p>最終改修プラン打ち合わせ</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護保険の申請も、保健婦より少し見合わせてもいいのでは、どのアドバイスで、アセスメント及びケアプラン等の資料は無い。 <p>・工事期間についての要望了解</p> <p>・契約は2月の第2週中に行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> 建築士 施工業者 <ul style="list-style-type: none"> ・最終改修プランの打ち合わせ ①工事範囲としては、本人が寝室から居間～洗面～トイレ～浴室への移動ができるだけ自立することをテーマにする。 ②使用材料及び機器については、後日カタログを提出し、確認。 ③素材については上記と同じくカタログを提出後確認。位置については本人が使い易い位置を、シミュレーションにより探る。町のOTの指導を受けることが最善である。 ・上記の項目を含め、最終プランに対する了解を得る。 ・工事期間についての要望了解 ・契約は2月の第2週中に行う。
 <p style="text-align: center;">現地打ち合わせ</p>				
10日	<ul style="list-style-type: none"> ○工事請負契約 		<ul style="list-style-type: none"> ○工事請負契約 	<ul style="list-style-type: none"> 施工業者
14日	<ul style="list-style-type: none"> ○着工 		<ul style="list-style-type: none"> ○着工 	<ul style="list-style-type: none"> 施工業者 <ul style="list-style-type: none"> ・工事写真
平成12年 3月10日	<ul style="list-style-type: none"> ○改修工事中、トイレについては家族が仮設トイレを使用、本人はポータブルトイレを使用。お風呂については、家族は温泉に行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○工事途中で家族から出された新たな要望 ・既存構造部分を補強改修しながら出される細かな要望も、予算内で出来得る範囲でお願いしたい。 	<p>改修チーム工事進捗状況確認</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ○8割程度の出来上がり状況での中間確認。 	<ul style="list-style-type: none"> 施工業者 建築士 コンサル <ul style="list-style-type: none"> ・改修プランにおける変更内容の確認。 ・本人及び家族、改修スタッフの感想聞き取り。
22日	<ul style="list-style-type: none"> ○完成 		<p>改修チーム工事完成確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施工業者 建築士 <ul style="list-style-type: none"> ・工事完成確認 ・改修後の使用状態確認

改修プラン



寝室から車イスで居間へ一人で移動できるようになった。お気に入りのソファでくつろぐ本人



茶の間と食堂間仕切段差解消及び建具取手（どの位置でも引ける）



沢水流しを埋め込んで床を同じ高さにした



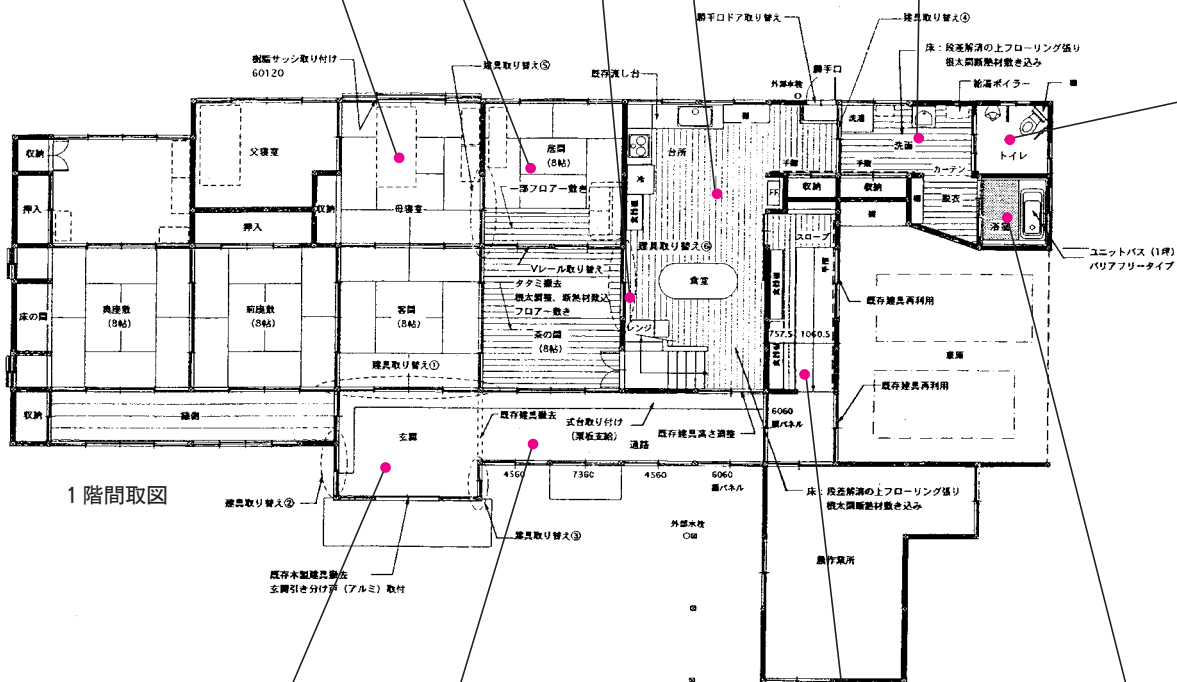
洗面台は昇降機能付洗面台を採用。正面はトイレ入口



改修後の本人の寝室
サッシを2重にして暖かさを保つ



古いトイレとボイラスペースを一つにして広さを確保



玄関内部
出入口敷居を撤去 車イスでもスムーズに入出りできる



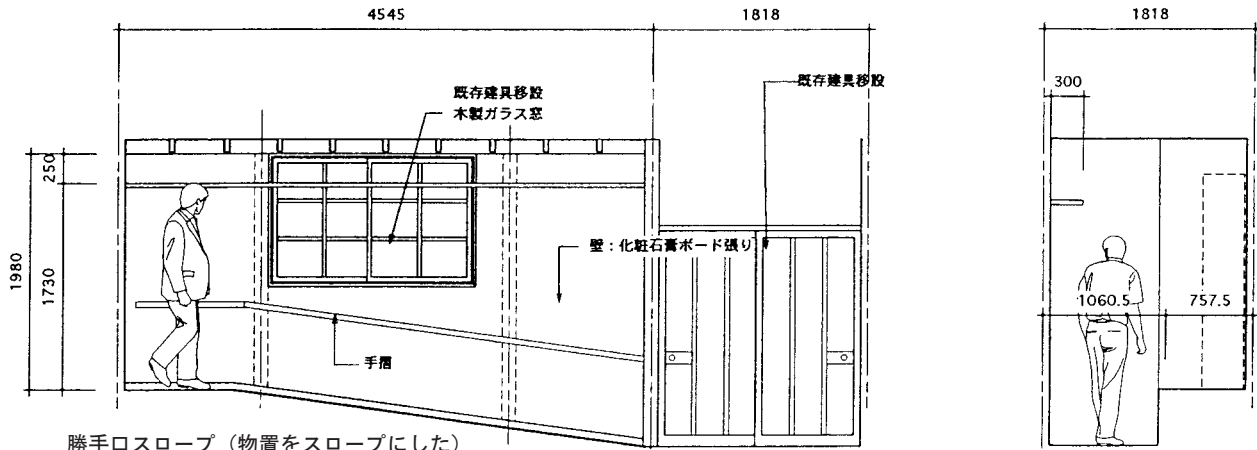
玄関～土間縁間仕切を撤去



既存の物置を改修し土間縁へ出られるスロープをつかった。右側収納スペース



バリアフリー仕様のユニットバス



改修案の整理 (福祉用具含む)

区分	課題 (ニーズ)	目標	改修等内容	改修効果	課題
勝手口	<ul style="list-style-type: none"> 現状では車椅子で外に出るためには、居室の床と玄関～土間縁の段差が470mmあり、降りることさえままならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 車椅子で自由に外に出たい。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存台所用物置スペースを、新たに収納スペースとスロープに改修。 土間縁に出入り口を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族の介助があるので、散歩の回数が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> スロープの勾配と、出入口前に踊り場のスペースが無いため、一人では出られない。
寝室	<ul style="list-style-type: none"> 現在の部屋は家の端にあり、寒く、タタミ敷きのため車椅子を操作しづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> 暖かく、車椅子を操作しやすい床にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部開口部2重サッシ化。 床下断熱工事。 居間との出入口引き違い戸取替え。 居間の床仕上げを一部合板フローアー張り変え。 	<ul style="list-style-type: none"> 暖かい部屋 今回3モーターベットを使用することが出来て、1人で車椅子に移乗し居間に出てくることが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分でトイレに行くことが出来ても、夜間の排尿はやはりポータブルトイレを使用することになる。
台所・食堂・茶の間	<ul style="list-style-type: none"> 居間～台所・食堂の間、台所の中に井戸流しがあり、更に大きな段差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 車椅子で洗面・脱衣室～浴室～WCへの移動が出来るようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 床段差解消の上、合板フローアー張り変え(床下断熱材敷き込み)。 居間～食堂間建具取替え。 	<ul style="list-style-type: none"> 家の中が暖かくなったので、車椅子で移動するのも楽しい。 	
洗面・脱衣室	<ul style="list-style-type: none"> 台所内の井戸流し床から190mmの大きな、車椅子では越えられない。 		<ul style="list-style-type: none"> 床段差解消の上、合板フローアー張り変え(床下断熱材敷き込み)。 食堂～洗面所間建具取替え。 昇降機能付洗面化粧台設置。 専用の脱衣室確保。 	<ul style="list-style-type: none"> 自由に屋内移動ができる。 洗面台でシャンプーしてもらえ。 自分で歯磨き、洗顔できるようになった。 	
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> トイレのスペース自体が狭く、車椅子では入れない。 現在の寝室からは25m離れた位置にある。(家の端から端までの移動距離) 	<ul style="list-style-type: none"> 家族への介護負担を軽減したい。 トイレでの排泄を自立したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 大小トイレスペースを一体化し、小便器、洋式便器を設置(水洗化)。 出入口を3枚引き戸とする。 手すりを床固定タイプとする。 トイレトペーパーホルダーを片手で出来るタイプにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で出来る 	<ul style="list-style-type: none"> 洋式便器の入り方をコーナー利用で斜めに設置したが、介助する場合、腰が痛いので入り口に対して真っ直ぐ取り付け方が良かった。
浴室	<ul style="list-style-type: none"> 出入口に段差があるほか、車いすで入るスペースはない。 	<ul style="list-style-type: none"> 家のお風呂に入りたい。 少しの手助けで自分で体を洗いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー仕様のユニットバス。 手すり取り付け 	<ul style="list-style-type: none"> 介助の軽減、毎日ではないが入ることが出来る。 ゆっくり長く入れて気持ちよい。 	

住宅改修費		福祉用具導入
総工事費	5, 400, 000円	○手すり
自己資金	4, 400, 000円	○シャワーチェアー
公的資金	1, 000, 000円 (事業協力金)	○バスボード
介護保険	利用なし。	
その他	日常生活用具の給付事業利用	

本人・家族の感想

- トイレにもっとコンセントを付けた方がよかった。
- トイレの引き戸を車椅子で入った後閉められない。
後日、2枚引き戸、1枚目の扉の奥に取っ手を取り付けた。これにより、一人でも方向転換しなくても閉めることが可能になった。
- スロープを降りたときガラスに当たって割れないか？
既存建具を再利用しながらの改修なので、この部分については使用してみてから対応しようと言うことになった。今のところは問題はない。
- 玄関の玄関戸（アルミ製）の既成引き手が浅くて小さいので使いづらかったが、後から大きめの引き手を取り付けてもらったととても使いやすい。
- 台所からトイレまで取り付けた手すり、脱衣室前にポイラーを置いたことで、底冷えしなくてとてもよい。

本人の声

自分でトイレに行くことが出来るようになるとは思っていなかった。出来たら、トイレトペーパーを片手で切れるととっても良いのに。

嫁の声

はじめは雪のことも考えて家を建て替え、高床にして見晴らしの良いマイホームを望んでいたが、今回の事業で

思いがけなく協力をいただける事になったので、改造を進めることにした。でも、築70年近く経った古民家も工夫し改造することで、こんなに快適な空間ができるなんて夢みたい。お母さん本人も家族の側に寝室が移動したことで、少し自分でやる気を起こしてきたみたい。

孫の声

家を壊すと聞いたときは、なぜ壊すのか理解できなかったらしく、自分たちは結構気に入っていたし、不便は感じないのにと言っていた。その時、おばあちゃんが車椅子に乗って自分でトイレやお風呂、食堂へいくことができるように改造するのだという納得した様子。今では、毎日少しずつ出来上がっていく部屋を見ては楽しんでいる。

息子の声

これまで古い部分を隠そうと中途半端な処置できな改善はしてきたようだが、今回ほどの大きな改造は初めて。できるだけ、仕上げは既存のデザインや仕上げ、カラーを基本にして機能的に改善していくうちに、古い梁や天井の仕上げ方法、壁の収め方等にこだわりを持つようになった。解体から施工途中にかけて、様々な写真を撮り、記録を残している。

家族へのアドバイス

- ・これまで自分からこうして貰いたいとか、要望を口にすることの無かった本人が、車椅子で自立した生活が可能になることで、少しずつ自信がもてれば、閉じこもりがちであったこれまでと違い、外へ気持ちが出てくるであろう。そのときこそ、デイサービス等があれば利用することも考えてみる必要がある。本人のやる気を起こさせる意味でも、どんどん外へ出てみてはどうか？
- ・また、現在元気な夫も慢性の頭痛を持ち、日常生活に不安があるため、夫婦共々見守っていく必要がある。
- ・夫婦2人が介護を必要とした場合の介護は、嫁の肩にかかっていくことは 想像はつくが、その際に家族の生活をも支援するサービスに対する情報を普段からキャッチしておく必要がある。

改修後のフォロー

- 今後車椅子で町に出かけたいと思った場合、家族に負担をかけずに移動できるよう、移送サービスが利用できるようなるといいのだが。

改修チームからのコメント

保健婦から

初めての住宅改修の参加でした。いろいろ勉強になりました。

施工業者から

新築と違い改修の場合、施主と毎日話しながら仕事ができるので、手すりの高さや位置、建具の広さ等に関して確認しながら進められたことはとても良かったし、いろいろなマニュアル本がある中で、その人に合った手すりの高さや位置には、個人差があることを知った。とても良い経験になった。

建築士から

初めての住宅改修に参加して、お客様の要望を聞きながら、みんなにとって良い方法を探りながらプランを作り、話し合いながら作り上げていく難しさ、その分納得行く造りができたときの喜びを得られたことは良かった。現場の確認も約1ヶ月の間に7回行き、その都度お客様の意見をもらいながら進められたので、住宅改修の流れはいくらも分かったように思う。